

向山社長メッセージ

進化しつづけよう！ — 創立60周年を迎えて —



(株)JR東日本環境アクセス (JEA) は今年3月で創立60周年を迎えました。

人間で言えば還暦にあたります。平均寿命が80歳を超す私たち人間の60歳は元気なシニア世代ですが、企業は寿命30年説もあるなかで、60周年を健全な形で迎えられることは大変意義のあることだと思います。

当社の創業期 (1963年) は日本の高度経済成長期にあたりますが、その後安定成長期を経てバブル経済崩壊を迎え低成長期へと経済環境が激変するなかで、国鉄改革や東日本大震災などもありましたので、これまでに何度もの経営環境の大変動があったことと思います。そのような大きな環境変化の中で、オーナーさま、お客さまのニーズに柔軟に対応しながら、作業スタイル、事業エリア、事業領域や業態などを進化させながら会社を成長に導いた先輩の皆さまに心より御礼申し上げたいと思います。

昨年は鉄道開業150周年の節目の年でした。当初の鉄道と比べると、鉄道の形、規模、位置づけ・役割や関連事業は大きく変化してきました。150年間の長い間の環境変化に対応して、進化してきた結果、生

き残った形が今の鉄道だと思います。

現在、当社は、首都圏でJR東日本の約300駅、JR以外の民鉄の駅舎を含めると約400駅、駅ビルなどの施設約140駅で清掃・メンテナンスを行い、また、約80台のパッカー車などを用いて約160箇所で廃棄物の収集・分別・運搬を行っています。駅、車両、ビルを使い続けるには、清掃・メンテナンスは不可欠です。これらの事業は約3,400名という多くの人財に支えられていますが、現在でも深刻化しつつある人手不足は年を追うごとにさらに進んでおり、他の企業と同様に当社においても生産性向上が急務になっています。

今後の首都圏の開発案件はJR東日本グループだけでも目白押しです。さらに、最近3年間のコロナ禍により、働き方、暮らし方など私たちの身の回りも大きく変化し、本格的なwithコロナ時代に入りました。世の中の衛生レベルへの関心はコロナ禍以前に比べると格段に高まっていますので、この点でも我々の清掃・メンテナンスへの期待も高まっています。

人手不足が深刻化するなかで、事業のチャンスは増える状況にありますので、皆さんとともに生産性が高く、スマートな仕事の仕組みに変えていきたいと思えます。

私は、現在、JEAの社長として3年目です。これまで2年半進めてきた清掃CBMや資源循環の高度化などによるJEAの将来をつくる取り組みを具体的な形にする正念場だと強く認識しています。「1人の100歩より、100人の1歩！」を合言葉に、社員の皆さんとともに新しいことにチャレンジし続けることで、仕事の「面白さ」「楽しさ」そして「働きがい（ウェルビーイング）」が向上するように会社を進化させていきたいと考えています。

1

人財育成（成長）と会社の進化の 好循環 人的資本経営

深刻化する人手不足を克服しながら、将来の需要にも応えるには、今の仕事をそのまま続けるだけでは対応できません。そこで、最新の資機材やケミカルを活用することはもちろんのこと、IoT、AI、ロボット技術を取り入れながら、スマートな仕組みに変えて、生産性を高めていく必要があります。ただし、機械化や自動化を進めるあまり、極端に専門特化し、マニュアル化していくと、社員の皆さんの工夫を必要とせず、人間性を阻害することになりかねないので注意が必要です。

将来の仕事においては、常にチャレンジし、改善しながら仕事を進めていくようにしていくべきだと思います。すなわち、チャレンジのために考えて、工夫しなければなりません。難しい課題にはすぐに結果が出ないかもしれませんが、これがうまくいった時、私たちにはそれだけ大きな喜びがありますし、私たち自身も成長し、さらなる仕事の自信につながります。仕事に面白さ、楽しさが生まれると、さらに新しい課題にチャレンジしたくなるという好循環につながっ

ていきます。

最近、ウェルビーイングという言葉をよく聞くようになってきましたが、仕事を通じての私たちの成長、充実感、さらにチャレンジしたくなるような働きがい、ウェルビーイングだと思います。社員の皆さんが、会社からやらされるのではなく、自らの問題意識で課題改善し、これを繰り返すことで充実感が得られ、働きがい、向上することをめざしていきます。

当社は、約3,400名もの社員に支えていただいている人財の会社です。すべての社員の皆さんの働きがいを最大化する人的資本経営を精力的に推し進めてまいります。

2

限られた人的資源を必要なところに集中投入 スマートな仕組み

(1) Try something new !

昨年までと異なる、何か新しいことに1歩を踏み出す取り組みがTry something new !です。おかげさまで、皆さんの新しい取り組みがかなり増えてきています。CBM提案箱にも取り組み報告が多く寄せられています。最近、新資機材に加えてケミカルの工夫なども増えてきました。思いつかないような工夫も増えてきて、感心するとともに、頼もしく思います。

新しい技術を取り入れるには、従来の作業を変える必要もあり、簡単にはいかないかもしれません。慣れ親しんだ作業スタイルを変え、関係者全員で1歩踏み出すには、理解と強い意志が必要になります。今後も、社員みんなでさらに1歩踏み出す取り組みを進めていただきたいと思います。皆さんのチャレンジを会社は最大限支援し、後押ししてまいります。

私たちの仕事場である駅や建物は、工場製品とは異

なり、現地生産の一点ものなので、個々の駅、ビルで材質、形状、経年が異なり、同じものはありません。さらに、お客さまのご利用状況、季節や時間帯によっても状況は変わります。したがって、現場によって、また、社員個人にとっての課題や困りごとまちまちだと思います。個々の環境や条件に適した仕事の仕方を見つけるには工夫が必要です。

「一度うまくいかなかったからと言って、それで終わりにしてはならない。一度、うまくいったからと言って、それで完成したわけではない。ある条件（環境）ではうまくいかなくとも、異なる条件（環境）ではうまくいくこともある」ということをよく認識して、丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

(2) 清掃CBM

駅や建物などの対象箇所ごとに、仕上がり目標にしたがって、最適なタイミングで最適な作業手法（機材+ケミカル+手順+体制）を適用できるようにする仕組みが清掃CBMです。

設備の強化・長寿命化【WG①】、作業の機械化・ロボット化【WG⑤】については、既に実用化されている技術を我々の仕事の中にうまく取り込んで作業スタイルをスマートにしていくことを精力的に進めていきます。従来は適用しにくかった条件でも使えるような清掃ロボットが実用化され、また、ホームドア清掃ロボットや小便器清掃ロボットなどの開発も進んでいます。ロボットは作業の効率性を高め、人手不足を補うことに有効ですが、これからはそれだけでなく、たとえ効率性が高まらなくても、精神的な負担の多い（ストレスの大きい）作業に活用できるものについては積極的に導入を検討していこうと思います。

検査の自動化・出来栄の数値化【WG②】につい

ては、①床面の汚れ（綺麗さ）について定点カメラの画像分析で定量把握する方法、②作業対象のスマホ画像のAI分析（AIスペクター）を作業計画に反映する方法、③社員・スタッフ・お客さまなどからの情報を共有する方法、これら3手法をうまく組み合わせて、客観的に状態把握する仕組みを検証・導入していこうと考えています。

この客観的に評価する仕組みをもとに、状態に合わせた的確なメンテナンスの仕組みを実現して、限られた人的資源を必要なタイミングで必要な箇所に集中投入し、最適化を図っていきます。オーナーさまの安心感、納得感を得られるようにしながら進めてまいります。

3

お互いをリスペクト（尊重）

働きやすい会社

当社は、約3,400名という多くの社員に支えられています。個々の社員の職業経験・資格・ノウハウ・価値観・人生観などの点で、多様性に富んでいます。そんな中で、社内で互いを尊重する、互いの価値観を尊重するということを続けていると、自らの視野も広がり、人間性も豊かになります。相手の立場に立ったものの見方をすること（利他の精神）は、巡り巡って自分に返ってくることになる。まさに、情けは人のためならず、自らのためになるということだと思っています。

一緒に働いている仲間をリスペクトし、安全上の注意を受けたら感謝しましょう。お互いをリスペクトして、より働きやすい環境にしていきたいと思います。

世の中は変わります。また、人智と技術は進歩します。過去にとらわれずに自らを変えていきたいと思います。